

オシレし分解!

■ concept

団地の収納として広く採用されたオシレ。

布団や衣服など”様々なサイズ”や”どのようなもの”でも
しまい込むことのできる収納である。

このように”大きくて煩雑な収納”とも言えるオシレは果たして
現在の生活様式に合っているのか？

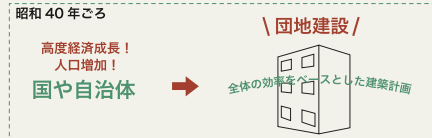
高度経済成長期に各地に建設された”団地”が使われなくなった
現在の状況の中でオシレという団地の収納の形を考え直し、
新たな形を探り、若者が入居したくなるような部屋を目指す。

1. 団地の分析

昭和30年代から昭和40年代の高度経済成長期に全国で建設が進んだ「**団地**」。

急激な人口増加に対応するために、国や地方自治体の手によって全国各地で建てられた。多くの住戸を**早急**に建設することが求められたため、様々な部品が規格化され**効率的**に住戸を増やすことを目的としていた。これらは住人のそれぞれの生活様式に沿うというよりも国や地方自治体の**全体的な利益や効率をベースとした建築計画**とも言える。

現在、全国各地で団地の空き家が増えている。全体の人口が減っているのが大きな原因ではあるが、生活様式の多様化などにより、このような国や自治体単位の**全体的な主義**のもと建てられた住戸が求められなくなっているとも言えるだろう。



それらの現状を象徴的に表しているのが「**団地における押し入れ**」である。

押し入れは団地における収納形態として全国で多く採用され、現在も多くの住戸で利用されているのではないと思う。経済成長とともに人々が多くのものを「**所有**」するようになり、**どのような大きさや形状**でも入れることのできる収納が求められた。そもそも押し入れとは江戸時代末期に広まったものであり、近代以降、主に和室の収納として広まった形態である。「**大きくて煩雑な収納**」とも言える押し入れは多くのモノを持つ当時としては万能で都合の良い収納であったことが言える。

近年、若い人の中で団地をDIYでリノベーションして住むのが流行しているが、もっぱら話題となるのは「**押し入れ**」をどのように使うかという問題である。押し入れの中段を机がわりにして書斎にしてみたり、パイプをつけてクローゼットにしてみたりと、見ているだけで楽しそうであるが、それは見方を変えてしまえば、「**押し入れが現代の生活様式に合っていない収納形態**」であることの本質であると言えるだろう。押し入れは布団や着物など寸法が決まった大きなものを収納するには長けているが、細かいものや形状がいびつなものを収納するには向いていない。そのようなモノを収納しようとすると**デッドスペース**が多くなり、より使いづらくなるだろう。また、襖を開けてモノを取り出すという動作により収納しているモノへのアクセスが悪く、結局カラーボックスなどの家具を置くことになって**部屋の面積を圧迫しているのが現状**なのではないか。



団地の需要がなくなった今、活用を考える上で、団地建設当時のように対象を**国や自治体全体の利益や需要**ではなく、**ターゲットや機能を絞った上**で活用を考えていくことが必要なのではないか？

2. 改修目的とターゲット

改修目的：

現在の生活様式に合っていない**オシイレ**という団地の収納形態を再考し、若者の間で流行っている「**見せる収納**」や、また**個人のためのスペースや収納**を新たに設け、若者の入居促進を目指し、他住戸や他の団地活用の**モデル**となるような改修計画。

ターゲット：

30歳前後の二人暮らし + (小さな子ども)

夫 (29)

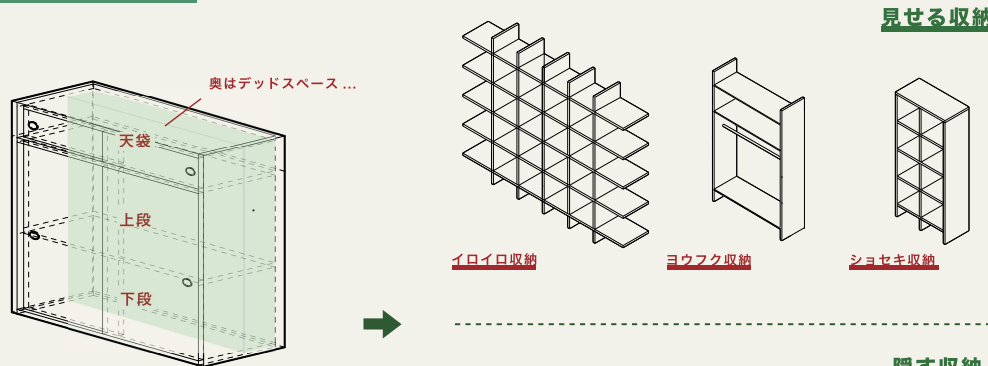
毎年必ず有給をとって泊まりで夏フェスに参加しており、友人からはアウトドアな性格だと見られるのだが、実はインドア派で、休日は家に籠もって一日マンガを読んでいる。最近ハマっているマンガはAKIRA。

妻 (28)

高校卒業後、料理の専門学校に通っていたが、所属したバンドの上京がキッカケとなり中退。現在はバンドを脱退して再び料理に熱が入っている。最近、アロマディフューザーを買った。一番得意な料理は麻婆豆腐。



3. オシイレ分解！



オシイレ収納

天袋：人の目に触れさせたくないもの

(例：高価なモノ、秘密のモノなど)

上段：使用頻度の高いモノ

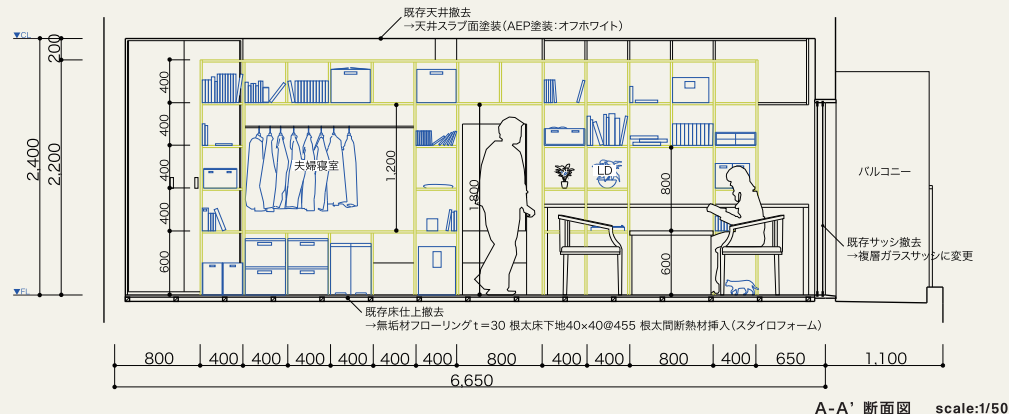
(例：布団やよく着る衣服など)

下段：使用頻度の低いモノ

(例：読まない本や着ない服など)

対象住戸のオシイレは**天袋、上段、下段**の三層に分かれている。オシイレは大きな収納であるが一つの押し入れの中でも場所によって収納するモノが変わってくることが多い。立ったままモノを取り出すことのできる中段は使用頻度の高いモノを収納し、下段はそこまで使用頻度が低いモノを収納する機会が多い。また、天袋に関しては下段同様、使用頻度が低いモノを収納するが、隠しておきたいモノや大切なものを収納しておく場所という側面もある。また、奥のスペースは基本的にどの段も使いづらく**デッドスペース**になっていることが多い。このようなオシイレの機能を**分解**し、各場所に配置し、また押し入れのように隠す収納だけではなく**見せる収納**を新たに設けて現在の生活様式に合わせる。

4. 断面計画



A-A' 断面図 scale:1/50

現状の天井板は撤去して**スケルトン**とし、天井スラブに直接オフホワイトのAEP塗装を施し空間を広く見せる。床面は床スラブからの冷気や暖気を遮断するために**断熱材**を入れ、**厚さ30mmのフローリング材**で仕上げる。また、外部に接する4つの引き違い窓は断熱面や気密面を考慮して**複層ガラスサッシ**とする。

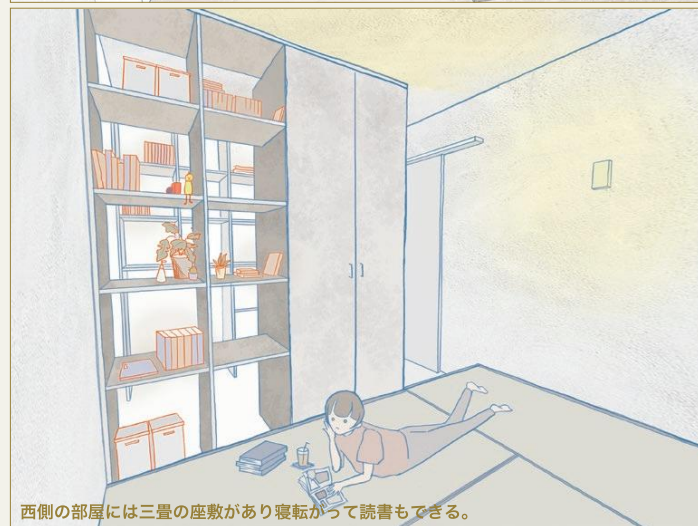
5. 平面計画



可動式の作業台はダイニングテーブルにもなる。



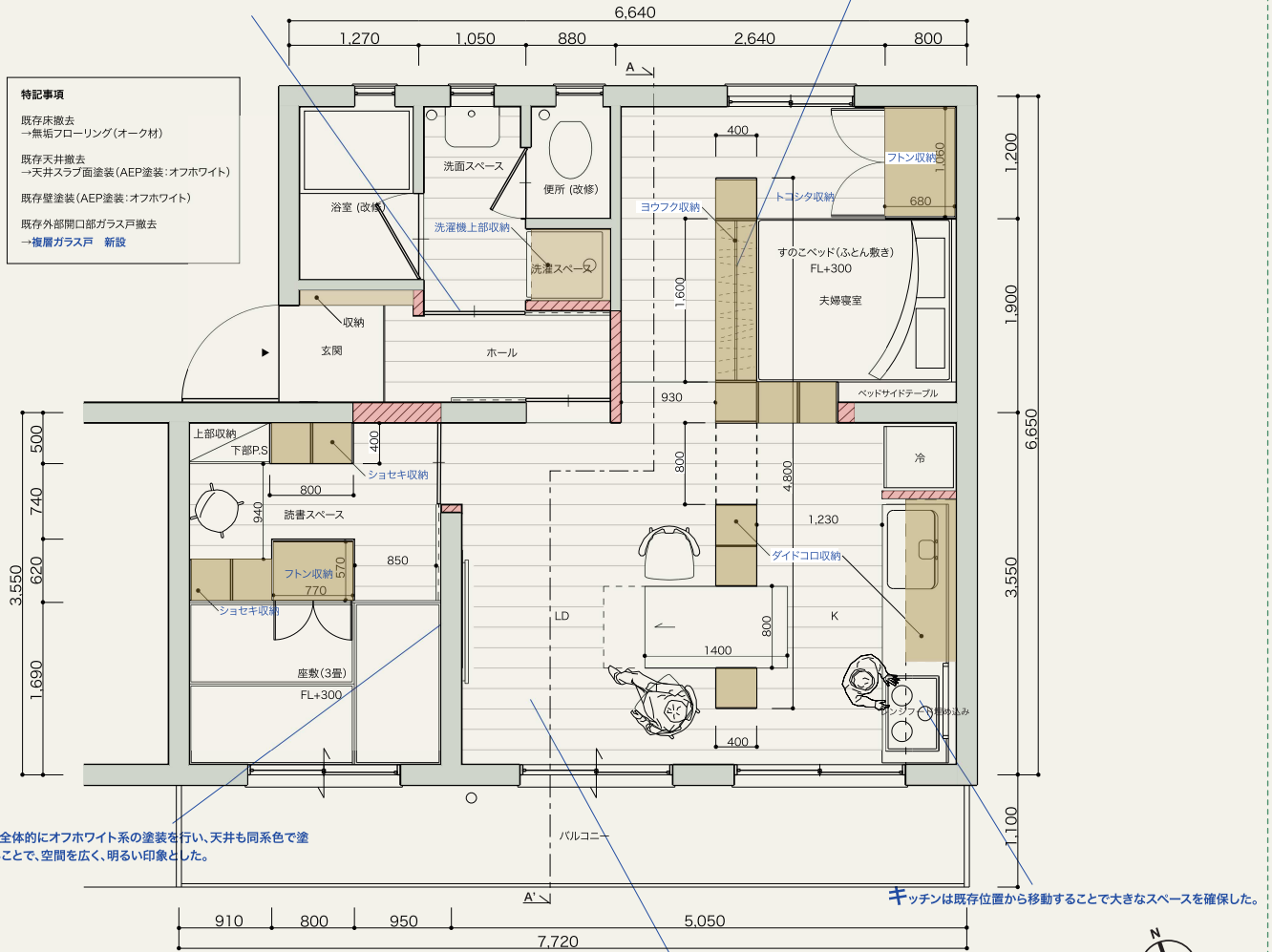
寝室の床下は隠す収納となっている。



西側の部屋には三畳の座敷があり寝転がって読書もできる。

更衣室がなく着替えのスペースが玄関ホールから現状では丸見えとなっていた。新たに引き違い戸を設け、また、元タバルコニーにあった洗濯機を置くスペースを室内に設けた。

- 特記事項**
- 既存床撤去
→無垢フローリング(オーク材)
 - 既存天井撤去
→天井スラブ面塗装(AEP塗装:オフホワイト)
 - 既存壁塗装(AEP塗装:オフホワイト)
 - 既存外部開口部ガラス戸撤去
→復原ガラス戸 新設



改修平面図 scale:1/50